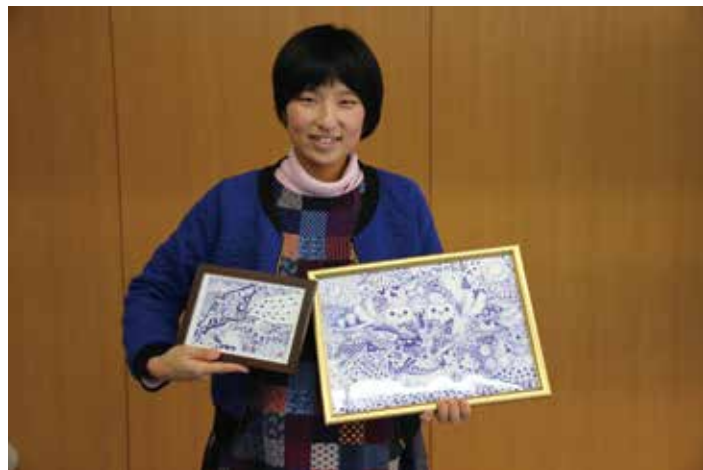


なめがたでキラリ輝く「ひと」

青色ボールペン1本で描かれた
数々の作品



清水 久仁子さん (29歳)

Profile

青色ボールペン1本で絵を描くペン画家。子育てしながら制作を続け、昨年6月に独立。都内での合同展に参加するなど幅広く活動中。2月まで麻生公民館後期講座「ペン画教室」の講師も務めた。内宿在住。

青一色で描かれた優しい絵。細部にもさまざまな模様が描き込まれ、見ているだけで楽しい気持ちになってきます。

二児の母でもある清水久仁子さんは「平和・愛・自然」をテーマに、そのとき頭に浮かんだものを青色ボールペンだけで表現するペン画家です。

「これまで水彩やアクリルなどいろいろな画材で描いてきましたが、子育てしながら道具を広げるのが大変で。ペンなら描きたいときにパツと描けて、今

の自分の生活スタイルに合っています。絵を描こうとたまたま手に取ったペンが青色だったのです。落ち着きがあつて気持ちが癒やされる色です」。

清水さんは、作画には技術的な縛りを設けず自由に描きたいと考えていますが、それでも「ペンだけで」「青色だけで」作品を描く、という自分の「限界」を決めて制作を続けています。

幼い頃を過ごしたのは、埼玉県狭山市。父親が趣味で油絵を描いており、芸術はいつも身近なものでした。「父のおかげで豊かな感性が身につきました」と清水さん。

育ったまちも行方市も、自然が豊かな場所。自然に触れながら、イメージがパツと浮かんだときに描きます。モチーフは「自然や生き物、人、子どもたちの笑顔」などさまざま。モチーフが決まったら、周りの細かい部分は考えながら描き進めます。子どもたちも見ると絵だから、優しく柔らかいタッチで。「無心で集中し、リラックスして描くことが、自分にとって大切な時間。妊娠中は絵を描くことが胎教でした」。



清水さんが講師を務めた公民館後期講座「ペン画講座」の様子。楽しく和やかに制作していました

結婚後、夫のふるさとである行方市に移住し、幼い頃から好きだった絵を通信制の学校で学び始めました。3年間でさまざまな課題をこなしながら、子育ても同時進行。「ここで学んだことが、今の自分の基礎になっていると感じます」。

今後は大きな作品のほかに「絵本を作りたい」という夢がある清水さん。一番の応援団は家族。特に夫の後押しがあるからできると話します。「絵の勉強をしたいと迷っていたときに『夢をかなえるためにやってみたら』と、背中を押してくれたのが夫でした」。

「好きなことを仕事にできて良かったです。夢に向かって、今できることを着実にやっていきたいと思っています」。清水さんはこれからも、夢の実現に向けて一歩ずつ進んでいきます。

スマホでもっと楽しめる！市報なめがた デジタルブック！

▼市報に登場するこのマークに注目！



市報に掲載されていない画像や動画をご覧いただけます。右のQRコードから無料アプリ(カタボケ)でご覧ください。



このアイコンが目印

デジタルブックは7言語に対応
Delivering e-book in English
电子书籍以中文简体字发布
电子书籍以中文繁体字发布
한국어전자전송중
ในระหว่างการจัดส่ง หนังสือดิจิทัล
Entregar e-book em Português

※ブラウザ版は音声読み上げや画像スライドショーには対応しておりません。無料アプリ(カタボケ)のインストールが必要です。

防災無線の情報が、
市メールマガジンでも
確認できます

下のQRコードから操作してください。

新規登録は
こちら→
(空メール自動登録)



配信項目変更は
こちら→

